



タイ初のプラスチック貯留槽で 浸水被害を食い止め安全な暮らしを実現

2011年7月にタイで起きた洪水は、首都バンコクを含む広い地域を浸水させ、甚大な被害をもたらした。その原因である大量の雨水を貯留し、流出を抑制する施設の開発・施工・販売を行っているのが秩父ケミカルだ。同社はJICAの民間連携事業を活用し、現地調査と実証活動を実施。コロナ禍にもかかわらずタイ側から1万トンを超える発注を得るなど、今年から事業が大きく動き出している。



都市化が進んでいるバンコクだが、排水処理設備は不十分で毎年のように熱帯特有の大暴雨による冠水・浸水被害に見舞われている



約10×50mのスペースに約4,000個のプラスチック製雨水貯留構造体を埋設した。大型の機械を使う必要もなく短期間で工事ができるこも現地では評価されている。



秩父ケミカル株式会社
代表取締役社長 吉田 寿人

1950年生まれ。都内の大学を卒業後、土木資材専門商社に入社。繊維素材を使った暗渠材・盛土安定材などの開発・販売に従事する。1998年秩父ケミカルに入社、2009年専務取締役、2022年代表取締役社長。

同社は、浸水・洪水被害を軽減する雨水流出抑制、地盤沈下対策、雨水利用を目的としたプラスチック製雨水貯留施設を開発・製造・販売。低コストな上に高強度と抜群の施工性を両立、高い評価を得てJICA-SDGsパートナーに認定。

同社は当初、同事業において2002年を目途に年間1万トンの容量に匹敵する貯留槽の施工実績をつくり、そ

ニーズにスピーディに対応
安全な暮らしの実現に貢献

「コロナ禍にはオンラインでやり取りしながら、タイの技術者たちの協力を得て計測機器を設置してもらいました。現在、モニタリングの結果を回収しているところですが、現地からはかなり高い効果があると評価をいただいている」

「タイのビジネスには、まだ伸びしろがある」と吉田さんは語る。同国での事業基盤を固めた暁に、隣国のカンボジアやベトナムなどにも進出し、東南アジア諸国の人々の安全な暮らしの実現に貢献したいと力強く締めくくった。

JICAの民間連携事業

JICAは長年、政府開発援助(ODA)を通じた協力により築いた途上国政府とのネットワークや信頼関係、途上国事業のノウハウを活用し、途上国への海外展開をご検討される日本企業の皆様を支援します。

お問い合わせ

JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業窓口

所在地
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1 竹橋合同ビル
TEL: 03-5226-3491 Eメール: sdg_sme@jica.go.jp
https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html



～企業共創プラットフォーム～

民間企業の皆様とJICAが共創して途上国課題解決に取り組む場となることを目指す企業様向け情報発信サイトとして、以下3種類の情報を発信していきますので、是非ご活用ください。

① SDGsビジネスの実践例

② 開発途上国課題

③ 企業の皆様とJICAの連携メニュー

案件名

プラスチック製雨水貯留構造体の案件化調査
2017年8月～2018年9月

浸水被害の軽減に寄与するプラスチック製雨水貯留構造体の普及・実証・ビジネス化事業
2019年5月～2023年1月

貢献するSDGs

防災

